

第2回松山市地域振興構想策定懇話会 議事要旨

■日時・場所

日時： 令和6年3月26日（火） 13：30～15：30

場所： 松山市役所別館6階 第1委員会室

■出席者

別添「出席者名簿」のとおり

■議事内容

1. 開会

2. あいさつ(事務局)

3. 協議・意見交換事項【資料1】【資料2】

地域カルテ及び地域ヒアリングの結果について

- 事務局より各サブセンターゾーンで実施した地域ヒアリングの結果概要を中心に、地域カルテについて説明したところ、出席者より以下のとおり発言等があった。
 - ・久谷のヒアリング結果で、地域で暮らしていく上での課題や不安として挙げられている交通、空き家、耕作放棄地の問題は、まち協内でも委員会を立ち上げて検討している。
 - ・島は人口が減り、高齢化が進んでいる。少ない人数でも伝統行事をどう守るか、自分たちの身をどのように守るかなど、まちづくりの中身を変えていく必要がある。
 - ・島では、大学生が柑橘の収穫やお墓掃除などのボランティア活動を行っている。若者の意見はできるだけ取り入れるようにしている。
 - ・「賑わい」には、外から人が来るという賑わいと、地域の中が賑わうという違いがある。地域で活動している人と、住民との間に温度差があるので、進め方が重要。イベントの期間だけではなく、コンスタントに人が地域に来てくれるようになるとより賑わうと思う。
 - ・地域の賑わい創出のための活動を行うNPO団体も多いが、資金繰りが厳しい。
 - ・地域の小中学校と連携した様々な取組を行ったとしても、大人になってから戻ってこられる割合は正直低いのではないか。それでも地域を愛してもらえるような取組をやっていくしかない。
 - ・地域の交流について、学生と高齢者という交流はあっても、その間の世代の交流は少ないのではないか。その世代との接点をどのようにつくっていくか。
 - ・年齢を超えた集まりを構築するには、今ある任意の団体での集まりから環を広げていくことでコミュニケーションをはかることができるのでは。
 - ・小中学生のときから市の政策や地域のことに興味を持ってもらえるように、積極的に学ぶ機会があれば、長い目で見ても地域のとっていいことでもあるし、構想の目標にもつながる。
 - ・学生の目が地域に向いていないように感じる。地域おこしは、子どもの声が聞こえてくるのが一番。そのためには、高齢者の意見も大事にして、学生の意見も取り入れながら盛り上げていくことが大事。
 - ・大学生には卒業があるため、卒業前に自分たちが次の世代へ引き継げたらいいのだが、大学の仕組みや学生自身の興味関心の面から声かけが難しいところ。
 - ・地域に愛着をもってもらえるような地域教育がまちづくりには必要ではないか。

松山市地域振興構想の構成イメージについて

- 事務局より地域振興構想の構成イメージ案について説明したところ、出席者より以下のとおり発言等があった。
 - ・松山総合公園サブセンターゾーンは、拠点やエリアとしての内容をもっと具体的に伝えること。
 - ・「若者との交流」「地域資源を生かした取組」はもっと強調してもよいのではないか。
 - ・今回の地域振興構想が、全国的にあまり例を見ないものなので、こういった構想を策定しているということを広く情報発信すべきである。若者にも周知をしていくと、興味をもってもらえるきっかけにもなる。
 - ・エリア別の部分について、地域でたたき台を出すことは可能か。地域の中でこうしていきたいという意向も出てくるのではないかと思う。
 - ・実施計画案の「管理」という文言については、取組の進捗を管理するという意味だと思うが、「管理」という言葉には少し抵抗がある。

4. 報告事項【資料3】【資料4】

高校生ワークショップについて

- 事務局より市内の高校に通学する高校生を公募して実施した高校生ワークショップについて、概要やまとめについて説明したところ、出席者より以下のとおり質問があり、事務局が回答した。
 - ・どの学生がどの地域について議論するかは、どのようにして決めたのか。→（事務局）各地域について、はじめに意見交換をしてもらったうえで、学生それぞれに、アイデアを提案したい地域を選んでもらい、議論してもらった。

地域のまちづくりに関する地区住民アンケートについて

- 事務局よりサブセンターゾーンの地区住民に対して実施しているアンケート調査の概要について説明した。

5. その他・閉会

■会議風景

